

平成 22年 6月 10日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18520577
 研究課題名（和文） 日米関係史における日本人とアフリカ系アメリカ人
 ——第二次世界大戦後から現在まで
 研究課題名（英文） Japanese and African Americans: Historical Aspects of Their Relations
 from World War II to Present
 研究代表者
 古川 哲史（FURUKAWA TETSUSHI）
 大谷大学・文学部・准教授
 研究者番号：90410977

研究成果の概要（和文）：この研究は日本人とアフリカ系アメリカ人の関係を、日米関係史の枠組みの中で探求し、その関係の特質を論じたものである。とりわけ、第二次世界大戦後の関わりの重要な事例を明らかにし、その歴史的意味や意義を論じることを目的とした。そして、幕末から第二次大戦までの時期の関係に比べて、戦後は関係の諸相が政治・経済・文化などの領域で多様化していることを示した。本研究課題は日米関係史研究の中でも蓄積が少なく、その規模の大きさと学術的かつ社会的意義から、今後は国際的な共同研究が必要である。したがって、本研究活動はその基盤形成に寄与するよう推進した。

研究成果の概要（英文）：This research project “Japanese and African Americans: Historical Aspects of Their Relations from World War II to Present” has examined important features of historical relations between Japan/Japanese and African America/African Americans in the context of Japan-US history after World War II. This project has revealed new or diverse aspects of relations in the last several decades, though there are some continuity seen between the pre-war and post-war periods. The project contains not only academic significance but also social meaning to promote mutual understanding between Japan and the US. Therefore, it has provided some basic frameworks of this topic for international academia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,100,000	0	1,100,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,100,000	600,000	3,700,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、西洋史

キーワード：アメリカ、日本、日米関係、日本人、アフリカ系アメリカ人、
 アフリカ系ディアスポラ、世界史

1. 研究開始当初の背景

日米関係についての研究は第二次世界大戦以前からあり、戦後はとくに数多い。しかしながら、日本あるいは日本人とアメリカの「マイノリティ」であるアフリカ系アメリカ人やその社会との関わりを論じたものはわずかである。

本研究代表者は2004年、アメリカ文化・文学研究者の古川博巳と共著で『日本人とアフリカ系アメリカ人——日米関係史におけるその諸相』（明石書店、2004年6月、553頁、全頁にわたり共同執筆）を刊行した。日米における15年にわたる共同研究の成果である。しかし、このテーマの今後の研究発展を意図して内容構成が「百科全書」的になった分、十分に議論できなかつた点も多く残った。とりわけ関係の諸相が多様化、複雑化する第二次世界大戦後から現在までの多くの問題は、検証が不十分あるいは手つかずのままであった。したがって、本研究は、戦前・戦中期の両者の関係を再度、概観した上で、戦後期の両者の関係や相互影響を調査し、明確にするため立案された。

2. 研究の目的

本研究は、日本人とアフリカ系アメリカ人の関係を、日米関係史の枠組みの中で史実を探求し、その関係の特質を論じる試みである。とりわけ、第二次世界大戦後の関わり的重要な事例を明らかにし、その歴史的意味や意義を論じることを目的とした。そして、この研究課題が、学術的意義のみならず、大きな社会的意義を持つことを示し、テーマの規模ゆえに国際的な共同研究が必要であり、その基盤の一つを提供する目的もあった。

さらには、この研究は、研究代表者が今まで行ってきた「日本—アフリカ関係史研究」といかに結びつくか、近い将来に企図している国際的な共同研究テーマ「世界史にお

ける東アジアとアフリカ、アフリカ系ディアスポラの研究」にどう繋がるかを考えることも、目的の一つとした。

3. 研究の方法

本研究は、幕末から第二次世界大戦までの時期の日本人とアフリカ系アメリカ人の関係を概観した上で、第二次世界大戦後の両者の関係や相互影響を調査した。そして、現在の日米関係における日本人とアフリカ系アメリカ人の係わりの現状や課題も視野に入れることを試みた。

具体的には、研究方法は以下の段階を取った。

* 第1段階：既往の研究の概観・検証

- 1) 本研究代表者自身の既往の研究成果の再検証
- 2) 内外での関連研究の再調査、概観作業

* 第2段階：史料・資料収集や聞き取り調査および実証的考察

- 1) 日本での調査活動
- 2) アメリカでの調査活動
- 3) 分析、考察作業

* 第3段階：研究成果のまとめと公表

(一般社会への還元作業を含む)

- 1) 学会等での口頭発表とそこで得られた批評にもとづく再検証
- 2) 内外の学術誌への論文公刊
(日本語および英語論文による学術貢献)
- 3) 学界および一般社会への研究成果還元 (図書・事典の出版など)

4. 研究成果

本研究の成果は、論文や研究ノート、書評などの刊行物、関連図書・事典の出版、および関連学会や国際会議での口頭発表によって公にされた。また、当該テーマを含んだ学術集会（一般公開）を企画・運営することで、学界ならびに一般社会への成果還元も試みられた。

とりわけ、この研究課題の意義や課題は、日本アメリカ史学会の学術誌に掲載の論文で論じた。（古川哲史「アフリカ系アメリカ人と日本／東アジア—その関係史構築の意義と課題を考える」、『アメリカ史研究』、日本アメリカ史学会、30号、2007年、83-93ページ。）

本研究の成果の詳細は、「5. 主な発表論文等」に記載されているとおりである。そして、研究代表者による本研究課題の研究活動は継続して行われており、今後も関連成果の公表が予定されている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

- ① Furukawa Tetsushi (古川哲史) “East Asia and Africa in World History: A Case Study of Japan’s Relations with Africa Up to World War II,” *World History Studies and World History Education: The Proceedings of the First Congress of the Asian Association of World Historians*, (CD-ROM) Osaka: Osaka University (The Asian Association of World Historians), March 2010, pp. 1-10. (査読無)
- ② Furukawa Tetsushi (古川哲史) “‘Black Pacific’ Considered: Japanese Early Relations with African Americans,” 『真宗総合研究所紀要』(大谷大学) 25号、2008年、1-10ページ。(査読無)
- ③ 古川哲史 「日本—アフリカ交渉史の諸相を考える—いくつかの研究課題と展望」、『ア

フリカ研究』(日本アフリカ学会) 72号、2008年、75-81ページ。(査読有)

- ④ 古川哲史 「アフリカ系アメリカ人と日本／東アジア—その関係史構築の意義と課題を考える」、『アメリカ史研究』(日本アメリカ史学会) 30号、2007年、83-93ページ。(査読有)

〔学会発表〕（計3件）

- ① Furukawa Tetsushi (古川哲史) “East Asia and Africa in World History: A Case Study of Japan’s Relations with Africa Up to World War II,” (in Panel: Africa and Asia in World War II) The First Congress of the Asian Association of World Historians (AAWH), Osaka University, May 30, 2009.
- ② Furukawa Tetsushi (古川哲史) “East Asia, Africa, and the African Diaspora: A Historical Perspective,” The 5th International Convention of Asia Scholars (ICAS5), Kuala Lumpur, Malaysia, August 3, 2007.
- ③ 古川哲史 「日本—アフリカ交渉史の諸相を考える」(公開シンポジウムでの発表)、日本アフリカ学会・第44回学術大会、長崎ブリックホール、2007年5月26日。

〔図書〕（計3件）

- ① Carole Boyce Davies ed., *Encyclopedia of the African Diaspora*, 3 vols. Santa Barbara & Oxford: ABC-CLIO, 2008.
* Furukawa Tetsushi (古川哲史) は本事典に、国際編集顧問 (International Advisory Board) のひとりとして参画(項目設定・執筆協力など)。
- ② 岡倉登志編『エチオピアを知るための50章』、明石書店、2007年。

*古川哲史「第7部：日本とエチオピア」
(第42章：二つの国の「出会い」、第43章：結びつく二つの「帝国」、第44章：「第二の満洲事変」をめぐって、第45章：多様化する日-エ関係、コラム12：エチオピア使節団の来日)、291-323ページ。

- ③ 松本昇他編『アフリカ系アメリカ人ハンドブック事典』、南雲堂フェニックス、2007年。

*歴史関係の項目担当執筆。(古川哲史「解放民局」「奴隷解放宣言」「ナイアガラ運動」他)

[その他] (計4件)

- ① Furukawa Tetsushi (古川哲史) “Book Review: *African Voices of the Atlantic Slave Trade* (2005) and *The Sounds of Slavery* (2005),” *African American Review*, Vol. 43, No.1 (Spring 2009 Issue), May, 2010, pp.195-197.

*米国のMLAの部門誌である *African American Review* (Saint Louis University 刊) 編集部より依頼の合冊書評。対象図書は、Anne C. Bailey. *African Voices of the Atlantic Slave Trade: Beyond the Silence and the Shame*. (Boston: Beacon Press, 2005, 304 pp.) および Shane White and Graham White. *The Sounds of Slavery: Discovering African American History through Songs, Sermons, and Speech*. (Boston: Beacon Press, 2005, 264pp.) の2冊。

- ② 黒人研究の会・第55回全国大会「大会テーマ：アメリカ新大統領誕生の背景と意義を考える」(キャンパスプラザ京都、2009年6月27日-28日)の企画、運営責任者。本研究課題の「日米関係」や「日本人とアフリカ系アメリカ人の関係」と関連する内容を企画、実施。
*古川哲史は黒人研究の会 (Japan Black Studies Association) [1954年に神戸市外国語大学で創設された、Black Studies の分野では世界でも古い歴史を持つ研究会。日本

学術会議の協力学術研究団体]の第55回大会において、バラク・フセイン・オバマ大統領誕生(2009年1月)をテーマにした大会を事務局長として企画・運営。基調講演者 (Fanon Che Wilkins) や大統領候補選挙からオバマ取材を続ける在米ジャーナリスト・特別発表者 (佐藤美玲) の招聘、当日は総合司会やシンポジウムの司会・コメントなどを担当。

(大会については、同研究会の会誌『黒人研究』79号、2010年3月刊に紹介あり。)

- ③ 黒人研究の会・第54回全国大会(広島大会)「大会テーマ：黒人研究と平和」(広島女学院大学、2008年6月28日-29日)の企画、運営を広島大会委員長・森あおい(広島女学院大学)とともに責任担当。本研究課題の「日米関係」や「日本人とアフリカ系アメリカ人の関係」と関連する内容を企画、実施。

*古川哲史は黒人研究の会 (Japan Black Studies Association) の事務局長として、黒人研究と平和やヒロシマをテーマにした第54回大会を大会委員長とともに企画・運営。講演者 Valerie Smith や Julia Wright などを招いた大会当日は、総合司会を担当。(大会については、同研究会の会誌『黒人研究』78号、2009年3月刊に紹介あり。)

- ④ 古川哲史 「“East Asia, Africa, and the African Diaspora: A Historical Perspective”——第5回国際アジア研究者会議(マレーシア)における発表より」、『黒人研究』(黒人研究の会)、77号、2008年、88-89ページ。

*以下の国際学術学会・会議への参加、発表にもとづく研究ノートの報告。

The 5th International Convention of Asia Scholars (ICAS5), Kuala Lumpur, Malaysia, August 3, 2007.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

古川 哲史 (FURUKAWA TETSUSHI)
大谷大学・文学部・准教授
研究者番号：90410977

(2) 研究分担者

*該当なし

(3) 連携研究者

*該当なし